

地域におけるチャレンジ・ネットワーク環境整備推進事業研究報告書

都道府県 埼玉県

<p>1. チャレンジ支援ネットワークの全体像</p>	<p>(事業名) 彩の国女性チャレンジ支援事業 (地域連絡協議会名、代表者職・氏名) 彩の国女性チャレンジ支援事業 ネットワーク連絡会議 With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター) 館長 柿沼トミ子 (協議会事務局) With You さいたま (ネットワーク参加機関名) 埼玉県男女共同参画審議会会長 (矢澤澄子) 埼玉県総務部男女共同参画課長 (倉上伸夫) (社) 埼玉県経営者協会 事務局長 (三国雅裕) 埼玉労働局 雇用均等室長 (西村知行) (財) 21世紀職業財団埼玉事務所 所長 (秋本一幸) 埼玉県創業・ベンチャー支援センター 副所長 (鈴木康之) 特定非営利活動法人さいたま SOHO 起業家協議会 理事長 (太田 昇) 埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部長 (友永孝浩) さいたま農村女性アドバイザー (輪島まり子) 中央大学 法学部教授 (広岡守穂) 目白大学 人文学部助教授 (大西律子) 埼玉新聞社業務局長 (小川秀樹) <支援部会参加機関> ・彩の国就職支援プラザ・ヤングキャリアセンター埼玉 ・埼玉県立職業能力開発センター ほか <連絡会議オブザーバー参加(公募事業を実施した8団体)> ・あれあれあ・ラナップ・ACT(アクト)・国際女性の地位協会 ・マドレボニータ@さいたま ・秩父市女性団体連絡協議会 ・さいたまNPOセンター ・S C I (埼玉・コーポレーション・インスティテュート) (実践の経過及び概要) 別添資料 2, 4 ~ 6 ページ参照</p>
<p>2. 女性のチャレンジ支援関係事業</p>	<p>(1) チャレンジ支援ネットワークを活かし、複数の機関が連携して行った事業(別添資料 2, 3, 10 ~ 22 ページ参照) 連携機関 連携事業の具体的な内容 (2) (1)に関連し、連携機関の取組(機関ごとに作成)</p>

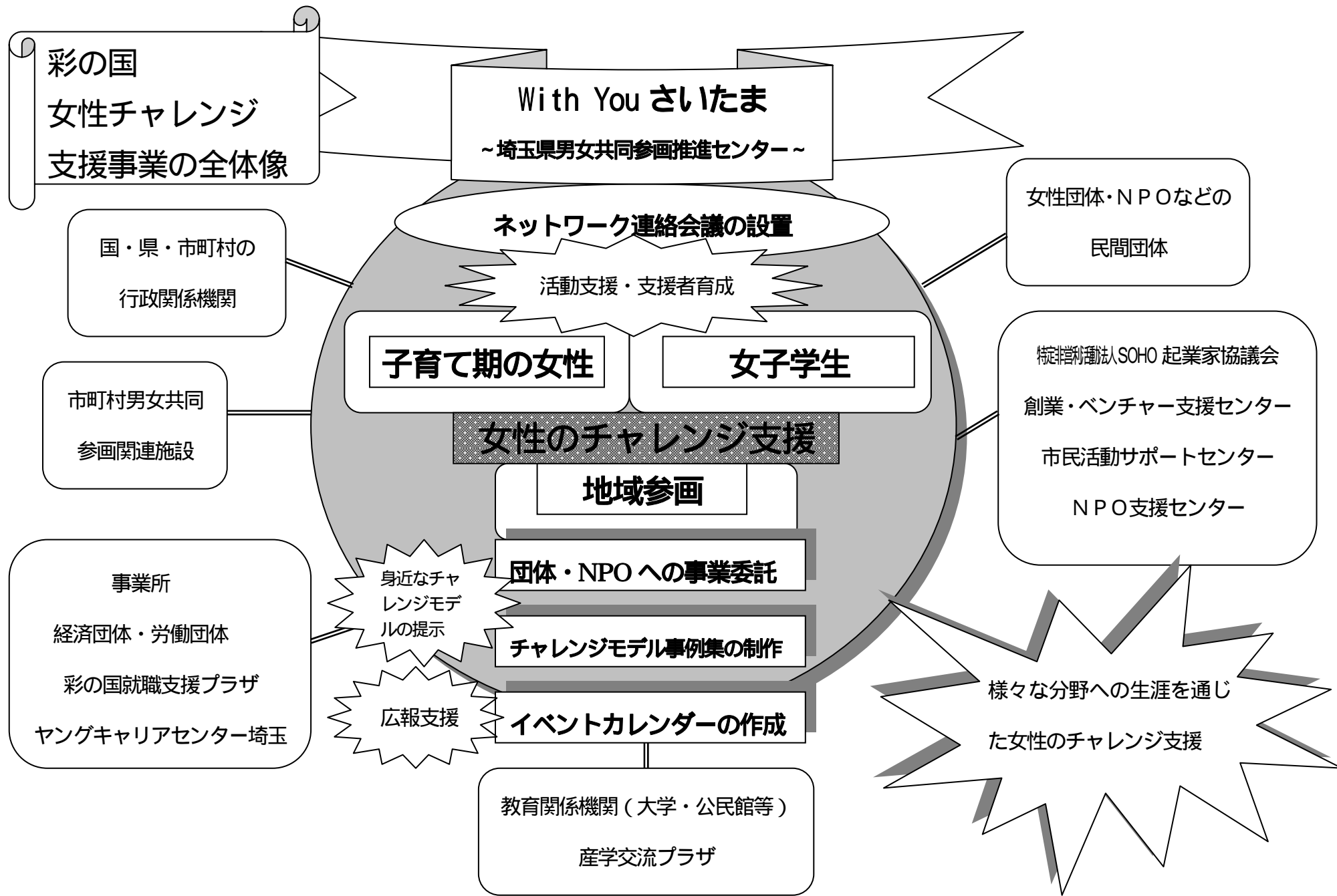
<p>3 . 事業の成果及び今後の課題</p>	<p>(1) 事業全体の成果</p> <p>チャレンジニーズに応じた事業展開</p> <p>事業実施にあたっては、あらゆる場面で女性団体や NPO などを活用し、参加者・利用者の意見聴取をするなど県民参加型で実施したことで、チャレンジニーズに応じた事業となった。</p> <p>情報ネットワークの構築</p> <p>With You さいたまのホームページに関係機関・団体の垣根を越えた「イベントカレンダー」を開設したことで、チャレンジしたい女性に効果的、効率的な情報提供を行うことができた。</p> <p>人的ネットワークの構築</p> <p>「With You さいたま」、「支援機関」、「公募事業実施団体」、「事業参加者」、「チャレンジモデル」、「チャレンジモデル編集員」などの相互の出会いの場となり、また、新たなネットワークの機会となった。</p> <p>身近なチャレンジモデルの発掘・情報提供</p> <p>団体による公募事業の実施によって、団体の運営者や講師陣が参加者にとってチャレンジモデルとなった。また、事例集の作成により、県内のチャレンジモデルを発掘し、情報提供となった。</p> <p>チャレンジ、エンパワーメントの機会の提供</p> <p>「公募事業実施団体」、「公募事業参加者」、「チャレンジモデル編集員」など、関係者、参加者すべてのチャレンジの機会となるとともに、事業の実施や参加を通じ、エンパワーメントされた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>体系的な情報提供</p> <p>チャレンジ支援に関する情報が体系的に整備するまで至らなかった。そこで、「チャレンジ支援ガイドブック」を作成するなど、各機関等の役割分担を明確にし、利用者にはわかりやすい情報提供機能を充実する必要がある。</p> <p>支援機関の連携強化</p> <p>支援機関のチャレンジ支援に関する共通認識を図ることができたが、チャレンジしたい女性へ必要な支援情報提供し、実際の活動までつながるようなワンストップ・サービスを行うため、支援機関の連携強化を図るなど体制整備が必要である。</p>
<p>4 . 担当部課等</p>	<p>(所在地) 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3 - 1 5 - 1</p> <p>(部課名) 埼玉県総務部男女共同参画課</p> <p>(担当者) 山田勇・矢嶋直美</p>

注) 1 分量は、A 4 版 2 枚程度でお願いします。

2 参考資料があれば添付してください。

< 目 次 >

彩の国女性のチャレンジ支援事業の全体像	1
事業内容及び実施結果の概要	2
<u>1 ネットワーク連絡会議の設置</u>	
1 ネットワーク連絡会議	4
2 ネットワーク連絡会議 支援部会	5
3 女性チャレンジ支援ネットワークのあり方について	6
参考： 地域連絡協議会（仮称）のあり方について関係者からの意見聴取	7
チャレンジ相談の実施	8
重点分野「働く分野における女性のチャレンジ支援」に関する 男女共同参画審議会 意見	9
<u>2 公募事業の実施</u>	
1 趣旨	10
2 スケジュール	10
3 内容	
(1) 募集	10
(2) 審査	12
(3) 関連機関との主な連携例	15
(4) 実施結果	16
4 成果	18
<u>3 「チャレンジネットワーク」構築のためのIT環境整備</u>	
1 趣旨	19
2 開設時期・場所	19
3 利用状況	19
4 内容	19
5 成果	20
6 利用者ニーズの把握	20
参考：イベントカレンダーのイメージ	20 - 1
<u>4 チャレンジモデル事例集の制作</u>	
1 趣旨	21
2 方法	21
3 掲載内容	22
4 成果	22
5 編集員の意見・感想	22



事業内容及び実施結果の概要

1 目的

男女、とりわけ女性が個性と能力を十分に発揮しえない現状を踏まえ、女性の新しい発想や多様な能力を活かせるよう、様々な分野への生涯を通じた女性のチャレンジを支援することを目的とする。

2 必要性

(1) 本県では、分野別及び職種別における女性進出の比率が低く、また、女性の労働力率が出産・子育て期に大きく低下する傾向が見られる。そこで、女性への積極的格差是正措置を実施し、意欲と能力のある女性が様々な分野へチャレンジするための支援を行う必要がある。

(2) この事業を With You さいたまを中心に行うことで、With You さいたまの在り方を、従来の「自主事業実施型センター」から「利用者自立支援型センター」へ転換し、県民参画を促進させ、活力あるセンターへ移行させる必要がある。

3 実施内容

(1) ネットワーク連絡会議の設置

目的：女性のチャレンジ支援を推進する地域ネットワーク構築のため、With You さいたまを拠点に、雇用や福祉、産業など複数のチャレンジ支援関連機関等で構成される「ネットワーク連絡会議」を設置し、各種チャレンジ支援事業の企画・立案及びその実践を行う。

内容：連絡会議を3回開催（準備会1回を含む）。女性が新たにチャレンジする際に必要となる職業支援、生涯学習、ボランティア・NPO活動、仕事と家庭の両立支援等を総合的に情報を提供し、ワンストップ化を構築する。また、支援部会を立ち上げ、アドバイザーや関連機関による事業実施団体等の支援等を行っていく。

(2) 公募事業の実施

女性団体活動の支援（女性チャレンジ推進団体委託事業）

目的：女性が社会の多様な分野でチャレンジするための先駆的な活動を実施している女性団体等に事業提案を求める。このことにより、女性活動団体の育成・支援を図る。

方法：事業案の募集（オリエンテーション）・第1次審査（書面審査）・第2次審査（プレゼンテーション）・事務説明会を経て、2団体に事業委託。事業実施後には、団体から報告書を提出してもらう。

事業名：1：女性起業インターンシップモデル事業～女性のライフデザインを考える～
2：女性のパワーアップ&ネットワークづくり講座

女性の政策能力活用事業（女性チャレンジ推進自主企画事業）

目的：個人・少人数グループ等が有しているチャレンジ支援事業として啓発効果の高い事業企画を With You さいたまと協働して事業化し、女性の政策・企画等の能力開発を支援するとともに、県民主体の事業展開を図る。

- 方 法：事業企画の募集（オリエンテーション）・第1次審査（書面審査）・第2次審査（プレゼンテーション）・事務説明会を経て、With You さいたまとの共催事業とする。（5事業について、5回講座を組む）
- 内 容：会場使用料、講師料、広報費の一部の補助、With You さいたま 広報紙、HPへの掲載。事業実施後に、団体から報告書を提出してもらう。
- 事業名：1：女子学生のための就職ガイダンス
2：私の力に気がつこう
3：手をつなごう温もりのまちづくり
4：いつだって再就職できるよ！
5：産後のリハビリプログラム

女性のチャレンジ・リーダー養成講座

- 目 的：地域や職場等において男女共同参画を推進するための様々な実践活動に必要な、マネジメントや広報など具体的なノウハウを提供できるリーダーを養成し、人材を育成する。
- 方 法：養成講座は、女性団体等からの企画提案方式を採用する。団体の募集（オリエンテーション）・第1次審査（書面審査）・第2次審査（プレゼンテーション）・事務説明会を経て、1団体に事業の企画・立案・運営を委託する。
- 事業名：地域における男女共同参画のための『おじさん』受けいれ講座

(3) 「チャレンジ・ネットワーク」構築のためのIT環境整備

- 目 的：地域情報や女性のチャレンジ支援に関する総合情報を収集・活用するため、With You さいたまのホームページのシステムを変更する。
- 内 容：企画の段階からイベントカレンダーの制作について、利用者である関連施設・団体等から意見を聴取し、検討する。また、必要な情報については、SEに委託して、掲載情報の随時更新を図る。システム完成後には、ちらし等を作成し、公民館などで広報する。
- ・女性チャレンジ支援に関する情報提供
 - ・開催月別にイベントを表示するイベントカレンダー
 - ・キーワードにより希望する情報を探せる検索エンジンの設定

(4) チャレンジモデル事例集の制作

- 目 的：彩の国女性チャレンジ支援事業報告書の別冊として、女性のチャレンジ支援の拠点施設を紹介するとともに、そこで関連して活躍している身近なチャレンジモデルを紹介する事例集を作成する。
- 内 容：県内男女共同参画関連施設などから、身近なロールモデルを推薦してもらい、女性チャレンジ応募団体の女性が編集講座を受講しながら、取材・執筆を行い、作成する。

(5) 彩の国女性チャレンジ支援事業 報告書（概要版）の制作

- 目 的：彩の国女性チャレンジ支援事業が県内外の自治体のモデル事業となるよう、また、この事業の普及を図るため、平成16年度に実施した事業に関する報告書（概要版）を制作し、各都道府県及び県内各市町村等の関連機関に配布する。
- 内 容：上記(1)～(4)の事業についてまとめ、5,000部を制作する。

1 ネットワーク連絡会議の設置

1 ネットワーク連絡会議

(1) 趣旨

With You さいたまを拠点に、彩の国女性チャレンジ支援事業を実施していくにあたり、関係機関の相互連携を図るため、意見・情報交換を行う。

(2) 内容

【第1回ネットワーク連絡会議 平成16年10月27日(水)】

- ・彩の国女性チャレンジ支援事業について
- ・公募事業の実施にあたって
- ・支援部会の設立について
- ・「イベントカレンダー」の開設に向けて
- ・今後の彩の国女性チャレンジ支援事業のあり方について

【第2回ネットワーク連絡会議 平成17年3月22日(火)】

議題

- ・With You さいたまの在り方及びチャレンジ関連機関の連携について
- ・コーディネート機能(チャレンジ相談)の充実について
- ・平成16年度事業報告会及び平成17年度実施説明会の日程について
- ・公募事業における公開プレゼンテーション選考委員について

報告

- ・事業実施団体の実施結果
- ・イベントカレンダーの開設について
- ・チャレンジモデル集の作成について

(3) 構成委員(計13人・敬称略)

男女共同参画全般

- | | |
|-----------------|---------|
| 埼玉県男女共同参画審議会会長 | (矢澤澄子) |
| With You さいたま館長 | (柿沼トミ子) |
| 埼玉県総務部男女共同参画課長 | (倉上伸夫) |

企業・就業関連

- | | |
|---------------------|--------|
| (社)埼玉県経営者協会 事務局長 | (三国雅裕) |
| 埼玉労働局 雇用均等室長 | (西村知行) |
| (財)21世紀職業財団埼玉事務所 所長 | (秋本一幸) |

起業関連

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 埼玉県創業・ベンチャー支援センター 副所長 | (鈴木康之) |
| 特定非営利活動法人さいたま SOHO 起業家協議会 理事長 | (太田 昇) |

NPO・ボランティア関連

- | | |
|-------------------|--------|
| 埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部長 | (友永孝浩) |
|-------------------|--------|

農業関連

- | | |
|----------------|---------|
| さいたま農村女性アドバイザー | (輪島まり子) |
|----------------|---------|

大学等教育機関

- | | |
|------------|--------|
| 中央大学 法学部教授 | (広岡守穂) |
|------------|--------|

目白大学 人文学部助教授 (大西律子)
マスコミ関係者等
埼玉新聞社業務局長 (小川秀樹)

< 第1回ネットワーク連絡会議オブザーバー参加(公募事業を実施した8団体) >

- ・あれあれあ ・ラナップ ・ACT(アクト)
- ・SCI(埼玉コラボレーションインスティテュート)
- ・さいたまNPOセンター ・国際女性の地位協会
- ・マドレボニータ@さいたま ・秩父市女性団体連絡協議会

2 ネットワーク連絡会議 支援部会

(1) 趣旨

彩の国女性チャレンジ支援事業に応募し、事業委託・事業共催となった団体(以下「事業実施団体」と表記)の核となる人に対して、分野ごとに関係機関が集まり、必要な支援及び意見交換を行うことによって、女性チャレンジ支援事業のキーパーソンを育成する。

事業実施団体は年度によって異なるため、支援部会の設置は常設ではなく、年度により分野にあわせて柔軟な体制で組織する。

(2) 内容

女子学生支援部会(平成16年8月11日(水))

事業実施団体の事業を実施にあたり、女子学生のおかれている状況を踏まえた視点から、企画書をもとに公募団体との意見交換を行った。

【アドバイザー】

- ・福沢恵子(東京家政大学助教授 ジャーナリスト)

【事業実施団体】

- ・ACT(アクト)

再チャレンジ支援部会(平成16年10月27日(水))

育児期及び育児後の女性が再チャレンジに向かうことを想定し、事業実施団体が行う講座の受講生等に対して、事業実施団体と関連機関が今後いかに連携を保ち、受講生等を支援するかについて、相互の情報交換を行った。

【関連機関】

- ・彩の国就業支援プラザ
- ・ヤングキャリアセンター埼玉
- ・埼玉県立職業能力開発センター
- ・(財)21世紀職業財団埼玉事務所

【事業実施団体】

- ・マドレボニータ@さいたま
- ・あれあれあ
- ・ラナップ
- ・ACT(アクト)

団体連携支援部会(平成17年2月4日(金))

事業実施団体が事業の実施結果を報告するとともに、団体間やアドバイザー

との意見交換を通じ、今後の活動に向けた相互の連携を目指す。

【アドバイザー】

・ 広岡守穂（中央大学法学部教授）

【事業実施団体】

・ あれあれあ ・ ラナップ ・ A C T（アクト）
・ S C I（埼玉コラボレーションインスティテュート）
・ さいたまNPOセンター ・ 国際女性の地位協会
・ マドレボニータ@さいたま ・ 秩父市女性団体連絡協議会

3 女性チャレンジ支援ネットワークのあり方について

ネットワーク連絡会議、支援部会における関連機関・団体による意見交換から、今後の WithYou さいたまを拠点とした女性チャレンジ支援のネットワークのあり方については、次のような点を踏まえ、来年度以降実施していきたい。

(1) チャレンジ支援ネットワークの目指すべき方向

チャレンジしたい女性に対して、必要な情報提供を総合的、体系的に提供し、実際の社会活動までつながるような支援をワンストップ・サービスで行うことを目指す。

(2) 今後、取り組むべきこと

体系的な情報提供

関連機関等の役割分担を明確にし、利用者にわかりやすい体系的な情報提供機能を充実する必要がある。

例：チャレンジ支援ガイドブックの作成、HPでの情報提供

事業の実施で連携協力

女性のおかれている状況やニーズに配慮した事業などをWith Youさいたまとチャレンジ支援機関や団体とで共同で企画・運営する。

例：女性起業支援講座の共同企画・運営

コーディネーター機能の充実

チャレンジに関する相談に対し、チャレンジ支援機関に橋渡しをするコーディネーター機能を充実し、関係機関や団体のもつ資源を有効に活用していく必要がある。

団体同士のネットワーク支援

女性のチャレンジの中で、同じようなテーマに関心のある団体同士がお互いの出来ること、得意分野を理解し、協力しあえるような「顔の見える関係づくり」を支援していく。

例：団体からの公募事業を募集する際の募集要件に、団体同士のプロジェクトチームによる応募を認める。募集説明会や報告会の機会を通じて、同じようなテーマに関心のある団体の意見交換の時間を設ける。

女性チャレンジ支援のネットワークの積極的な広報

チャレンジの拠点施設としてのWithYouさいたまの存在をPRするとともに、支援機関や団体による取り組みの県民へ広く周知していく必要がある。

< 参考 >

地域連絡協議会（仮称）のあり方について関係者からの意見聴取

1 目的

地域における女性チャレンジネットワークを構築するための地域連絡協議会（仮称）のあり方について、内閣府チャレンジ支援ネットワーク検討会委員から御意見を拝聴し、検討のための参考とする。

2 概要

（1）広岡守穂（中央大学法学部教授）

訪問日 平成16年4月20日（火）

主な意見

- ・男女共同参画推進センターは、利用者の自分探しやチャレンジしたい人に役立つ実践的なノウハウ提供をすべき。
- ・雇用してくれる企業と連携し、男女共同参画推進センターで人材を育成し、きちんと就職へつなげていくべき。
- ・埼玉県で考えているようなプロジェクトごとで立ち上げるならば、国のえがりてネットワークのようなものは要らなくなるのではないか。

（2）桜井陽子（横浜女性フォーラム館長）

訪問日 平成16年4月21日（水）

主な御意見

- ・ネットワークの目的を明確にし、事業（問題）ごとに必要な機関と自在にネットワークしていく。
- ・自在にネットワークできる力、見極めできる人材育成が大事。
- ・男女共同参画推進センターが、地域の社会資源と連携し、地域からあてにされる存在を目指す。

（3）北村節子（読売新聞社調査研究本部主任研究員）

訪問日 平成16年4月28日（水）

主な御意見

- ・チャレンジ支援ネットワーク検討会報告書では、課題（問い）を洗い出し、民間を活用することをポイントとした。
- ・センターや利用者へのアンケート結果から、もはや学習ではなく、具体的な起業、就業支援が必要とされている。それらの仕事はハローワークなど他省庁の管轄である。その各省庁の垣根を越え、国の出先機関も男女共同参画推進センターの事業に活用できないだろうか。
- ・女性の再就職のために、いかに常勤マーケットに載せていくか。「働くとは何か」を知り、リハビリを行い、受け入れ先を見つけていくハウツーの確立が必要。
- ・埼玉の女性たちのニーズは何か？、そのニーズを知っている人をダイレクトに活かす。
- ・女性の生き方のモデルをつくるのが大事。県民の女性の生き方をストーリーとして追うことで、チャレンジするために必要なことを抽出する。

チャレンジ相談の実施

1 目的

いつでも、どこでも、誰でもチャレンジしたいときに、チャレンジできる環境づくりのため、「働く」、「起業」、「NPO」、「農業」、「まちづくり」、「国際」などの分野でチャレンジしたい女性のための相談のニーズを把握を目的とする。

2 内容

(1) 相談の募集

「WithYou さいたまフェスティバル」開催中の来場者対象に、チャレンジ相談事業の受付用紙を配布し、相談を募集する。

(2) 相談の実施

相談内容

小中学校や公民館で子どもや市民対象の「国際理解教育」を開催し、そのファシリテーターにチャレンジしたい。そのため、小中学校などで開催するための方法や、ファシリテーター技術の学び方を知りたい。

そこで、そのような経験のある方に相談したい。

相談対応者

埼玉国際協力協議会（団体略称：埼玉 NGO ネット）代表 尾嶋佐和子

相談内容

Q 「国際理解教育」のファシリテーターについて学びたい。

A 開発教育協会や武蔵野市の国際交流協会から、「開発理解教育」に関する良い書籍があるので、学ぶことが必要。ファシリテーター技術については、拓殖大学のオープンカレッジではじめたので、参加されてみたらどうか。

Q 地元の小学校の総合学習に「国際理解教育」を取り入れてもらいたいが、どうしたらいいか。

A 学校に外国人を紹介するときに、欧米ではなく、アジア系の方を紹介するなど、少しずつ学校とパイプを作っていくのは良いこと。今は充電期間と考えて、5歳のお子さんが小学校に入学したときに提案できるように力をつけておくときでは。

Q 地元市で、「貿易ゲーム」などの開発教育の参加型の講座を開きたいが、講師謝金を負担する余裕がない。

A 参加者から500円程度の会費を集めたらどうか。その範囲で対応可能な講師を紹介することはできる。そういった小さな講座を積み重ねていくことが大事。一生懸命学び、上手なファシリテーターになった女性を紹介するので、その女性の講座の手伝いをしながら学ばれたらどうか。

Q 外国人の母親とも当事者同士で関わる育児サークルの代表をしているが、今後、「お母さんのための国際理解サロン」にしていきたい。

A お子さんの成長とともに、組織を変えていくべき。そのためには、今のうちに勉強しておく。団体の代表をしているのは強み。

重点分野「働く場における女性のチャレンジ支援」に関する 男女共同参画審議会 意見

1 概要

埼玉県では、「埼玉県男女共同参画推進プラン^{にいまるいちまる}2010」を実効性のあるものとするため、県の施策について男女共同参画を推進する視点から配慮の度合いを評価する「男女共同参画配慮度評価」を平成15年度から導入している。

男女共同参画配慮度評価では、庁内各課において事業の自己チェックをするとともに、外部チェックとして、埼玉県男女共同参画推進条例第10条第2号に基づき、男女共同参画審議会が、「男女共同参画の推進に関する施策の実施状況について、必要に応じ、調査し、知事に意見を述べること」となっている。

そこで、平成16年度は「働く場における女性のチャレンジ支援」を重点分野とし、庁内関係課室（総務部NPO活動推進課、農林部農業支援課、労働商工部雇用対策課・職業能力開発課・産業創出課・金融課、教育局高校教育指導課・生涯学習課・県立学校課・市町村教育課）及びWith Youさいたま～埼玉県男女共同参画推進センター～にヒヤリング調査を行い、その結果を意見としてまとめ、意見として公表する予定である。

2 意見の内容（案）

（1）チャレンジする際に直面する課題への対応策

チャレンジ支援ガイドブック（HP）の作成を

女性がチャレンジしたいときに、容易に必要な支援体制の情報が得られるよう、各機関等の情報資源が総合的かつ有効に活用されるような、利用者の立場に立った情報提供機能の整備・充実を望む。

チャレンジ支援相談窓口の設置を

チャレンジしたいが何から始めたらいいのか、何処へ行けばいいのか。こうした悩みに回答でき、個人の意欲を具体化し、希望するチャレンジ活動に結びつけることができるよう、電話やHPによる問い合わせ・回答等の環境整備を進める必要がある。

チャレンジ支援ロールモデル集の作成を

埼玉にも先駆的にチャレンジしている女性がたくさんいる。そこで、ロールモデル集を作成することで、起業やNPO・地域活動など、様々な分野で輝いている女性像を見ることができ、多くの女性が自らの選択でチャレンジしようという気持ちを醸成することができる。

ネットワーク連絡会議の設置及び連携強化を

女性の活動を更に幅広いものとするため、県庁内部の機関を含めたネットワーク連絡会議を設置し、拡大していくことが求められる。

（2）各課所における関連事業への具体的意見

女子学生の就職支援

女性の起業支援

子育て後の再就職支援

NPO 活動推進支援

女性の農業支援

女性の登用

男女共同参画の拠点施設

2 公募事業の実施

1 趣旨

女性たちの能力発揮とともに事業の実施を通して、チャレンジしたい女性たちのエンパワーメントにつなげるため、団体等から企画提案を募集する。

2 スケジュール

- ・ 募集開始 平成16年4月26日(月)～6月4日(金)
- ・ 募集説明会 5月22日(土)
- ・ 第一次審査結果通知 6月17日(木)
- ・ 第二次審査 6月26日(土)
- ・ 第二次審査結果通知 7月7日(水)
- ・ 事務連絡会 7月中旬～下旬
- ・ 各事業の広報 9月～12月
- ・ 各事業の実施 9月下旬～1月下旬
- ・ 事業報告 平成17年2月15日(火)

3 内容

(1) 募集

募集内容

1) 女性チャレンジ推進団体委託事業

県では、様々な分野への生涯を通じた女性のチャレンジを支援するため、女性の新しい発想や多様な能力を活かし、先駆的な活動を実施している女性活動団体等から企画の提案を募集し、事業を委託する。

対象事業

女性の新しい発想や多様な能力を活かすため、次の～のいずれかに該当し、生涯を通じた多様な女性のチャレンジを支援するような事業であること。

政策・方針決定過程に参画し、活躍することを目指す「上」へのチャレンジ
起業家、研究者・技術者等、従来女性が少なかった分野に新たな活躍の場を広げる「横」へのチャレンジ

子育てや介護等でいったん就業を中断した女性の「再チャレンジ」

応募資格

県内を主たる活動地域として男女共同参画社会の実現に向けた活動を行っている団体などであること。

委託費 30万円を上限。

募集团体数 2団体

2) 女性チャレンジ推進自主企画事業

県では、女性の政策・企画等の能力開発を支援するとともに、県民主体の事業展開を図るため、啓発効果の高い企画を有する個人・少人数グループ等を募集し、With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)と協働に事業を実施する。

対象事業

女性の新しい発想や多様な能力を活かすため、次の～のいずれかに該当し、

生涯を通じた多様な女性のチャレンジを支援するような事業であること。

政策・方針決定過程に参画し、活躍することを目指す「上」へのチャレンジ
起業家、研究者・技術者等、従来女性が少なかった分野に新たな活躍の場を
広げる「横」へのチャレンジ

子育てや介護等でいったん就業を中断した女性の「再チャレンジ」

応募資格

県内を主たる活動地域として男女共同参画社会の実現に向けた活動を行っている
または、はじめたい個人・団体であること。

支援内容 講師謝金、会場費など15万円以内

募集团体数 5団体

3) 女性のチャレンジ・リーダー養成講座

県では、地域や職場等において男女共同参画を推進するための様々な実践活
動に必要な、マネージメントや広報など具体的なノウハウを提供できるリーダ
ーを養成し、人材を育成するため、男女共同参画社会の実現に向けた活動（事
業）を行っている団体・企業を募集し、事業を委託する。

対象事業

- ・地域や職場等のリーダーとして男女共同参画社会の実現を目指す個人・団体
等が、今後の事業実施に必要な組織の運営方法、財源獲得の方法、事業の展
開の方法などについて学べる講座であること。
- ・講座の内容が実践に結びつくような内容であること。

応募資格

県内を主たる活動地域として男女共同参画社会の実現に向けた活動を行ってい
る団体などであること。

委託費 50万円を上限。

募集团体数 1団体

募集期間 平成16年4月26日(月)～6月4日(金)

募集説明会

1) 開催日 平成16年5月22日(土)

2) 内容

- ・講演「女性チャレンジ支援について」With You さいたま館長 柿沼トミ子
- ・説明「彩の国女性チャレンジ支援事業の募集について」
- ・質疑応答
- ・個別相談会

3) 参加者のニーズ把握

説明会の参加者に、チャレンジ分野（生活全般、起業、キャリアアップ、起業、地
域活動、NPO、ボランティア/市民活動団体、国際交流、育児・介護）について、
「望むこと」、「できること」を聞いた。

「望むこと」としては、どの分野も「情報が欲しい」のニーズが多かったが、「相
談したい」は、「NPO」以外はなかった。「講座・セミナーに参加したい」は、「キ
ャリアップ」、「育児・介護」が多かった。

「できること」とは、「望むこと」に比べ、全体的に前向きな回答が多く寄せら
れた。特に、「講座・セミナーを企画運営できる」は、どの分野も回答が多く、特

に、「キャリアアップ」、「就業」、「育児・介護」が多かった。「情報 提供ができる」では、「就業」、「NPO」が多く、「相談を受けられる」では、「就業」が多かった。

【説明会参加者の自由意見】

- ・今まで講座を何回も WithYou で開いている団体である。今回のチャレンジ支援事業において、自主企画事業の場合は、講師以外はすべてボランティアという事か。何のメリットがあるのか。
- ・自主企画事業は、講師の金額の設定が低い。
- ・3募集とも参加者負担ゼロになっているが、無料で参加する人にあまり高い意識を感じられないというのが、今まで様々な講座を企画運営してきた私の感想である。
- ・大変貴重な企画。タイムリーで有意義。素晴らしい。
- ・公募というかえって労力のいる企画を推進することに県の意欲を感じる。
- ・公募というのは、委託にしる協働にしる大変なことと思うが、このような機会を与えられるとことに感謝する。
- ・積極的な施策に期待。今後の発展を祈っている。
- ・事業の違いがよくわからずとまどったが、説明会に来てよくわかった。良い事業だと思う。
- ・とてもいい企画だと思う。市民グループもこうやって成長する。また、行政との協働が可能になると思う。今後もこのような機会はたくさん作ってほしいと思う。

応募状況

35団体・個人から、43件の企画が提案された。

- 1) 女性チャレンジ推進団体委託事業 11企画
(分野) 再就職3, 子育て2, 起業1, コミュニティビジネス1, 介護1, 高齢者1, リーダー養成1, 参画チャレンジ1
- 2) 女性チャレンジ推進自主企画事業 23企画
(分野) 再就職9, ライフプラン2, 能力開発・エンパワーメント2, 子育て1, 介護1, 高齢者1, 年金1, 女子学生1, 女性経営者1, 自治会参画1, 社会参画1, 健康づくり1, ワークスコレクティブ1
- 3) 女性チャレンジ・リーダー養成講座 9企画

(2) 審査

彩の国女性チャレンジ支援事業審査会の設置

1) 業務

目的

彩の国女性チャレンジ支援事業において応募のあった企画に対して、審査・選定を公正に実施するため、彩の国女性チャレンジ支援事業審査会を設置する。

業務

審査会は、事業の選定を行う。

選定にあたっては、第一次審査及び第二次審査を実施する。

- (1) 第一次審査は、事務局において、事業内容を書面により、評価基準に基づき選定し、審査会の委員へ提出する。
- (2) 第二次審査は、第一次審査を通過した企画案について、提案団体等によるプレゼンテーションを行う。
- (3) 各委員は、提案団体等によるプレゼンテーションの結果を踏まえ、評価基準に基づき選定する。

2) 審査委員

専門家6名(学識経験者等)、With You さいたま館長、埼玉県総務部男女共同参画課長の8名で構成する。

太田昇	特定非営利活動法人さいたまSOHO協議会理事長	(NPO、起業)
小泉明子	ヤングキャリアセンター埼玉	キャリアカウンセラー(再就職支援)
齋藤弘美	(株)FMNACK5 報道情報センター&アナウンサー	(マスコミ)
	埼玉県生涯学習審議会委員	
高橋雄三	日本財団 公益ボランティア支援グループ	(NPO、ボランティア)
平賀圭子	With You さいたま事業コーディネーター	
矢澤澄子	埼玉県男女共同参画審議会委員	(学識経験者)
柿沼トミ子	With You さいたま館長	(行政)
倉上伸夫	埼玉県総務部男女共同参画課長	(行政)

公開プレゼンテーション(第2次審査)

1) 趣旨

第1次審査を通過した16団体について、次のとおり第2次審査を公開のプレゼンテーション方式で実施する。

2) 内容

開催日 平成16年6月26日(土)

審査方法

公開のもとでの資料について口頭発表(プレゼンテーション)

審査委員との質疑応答

選出団体等及びテーマ

<女性チャレンジ推進団体委託事業>

団体名	タイトル
特定非営利活動法人 彩の子ネットワーク	ブレバパ&ブレママのための『妊娠・出産・子育てワークショップ』
SC I(埼玉・コラボレーション・インスティテュート)	女性起業インターンシップモデル事業 <女性のライフデザインを考える>
子育てサークルアップル	女性の再就職チャレンジ支援事業(保育サポーター養成講座)
国際女性の地位協会(埼玉プロジェクト)	女性差別撤廃条約・勧告と埼玉県男女共同参画推進条例を地域で活用する
越谷子育てサークルネットワークの会	ママだってもう一度働きたい! 『ママの再就職応援セミナー』

<女性チャレンジ推進自主企画事業>

団体・個人名	タイトル
イベント・ママ	『もう一度輝こう!私』・・・実践!社会復帰支援講座
ACT(アクト)	女子学生のための就職ガイダンス-就職活動をスタートする皆さんへ-
篠原陽子(個人)	参画メイト・キャラバン
NPOバリキャリネットワーク	女性チャレンジ応援セミナー『ワークショップ 夢を起こす』
あれあれあ	私の力に気がつこう(仮称)
ちちぶ共同参画協議会	手をつなごう温もりのまちづくり
ラナップ	いつだって再就職できるよ!~自分のチカラをフル活用して自分らしい働き方、暮らし方を手に入れよう~
マドレボニータ@さいたま	産後リハビリプログラム~社会参加に向けて体と心を立て直そう~

<女性のチャレンジ・リーダー養成講座>

団体・個人名	タイトル
有限会社 ファイナンシャルファンズ	創業者および創業指導者育成講座
特定非営利活動法人 女性と仕事研究所	彩のくに女性のチャレンジ・リーダー養成講座
特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター	おじさん受けいれ講座

3) 公開プレゼンテーション参加者・一般観覧者からの意見

【プレゼンテーション参加団体からの意見】

- ・他団体のプレゼンテーションを傍聴することができ、とても有意義だった。
- ・女性の再就職支援という点で、共通した思いを持っている団体が複数あった。“思いは同じ”ということか。個々に活動することもよいことであるが、皆で力を合わせることでもっと大きなことが出来るのではと感じた。
- ・参考になるいい発表があり、これからも意欲的に取り組んでいきたいと考えている。
- ・第一次発表からプレゼンまでの時間が短く、準備が大変だった。
- ・他団体があまりにも立派なので、私どもの団体だけ場違いな感想を受けた。それでもいい勉強になった。
- ・埼玉在住の30代を中心とした若い専門家の集まりが、真剣に地域に役立とうと昨年から取り組んでいる。まだ実績もないが、この事業をステップとして今後もメッセージを届けていくことに全メンバーが燃えている。
- ・控室でもプレゼンの練習が出来ると良かった。
- ・発表スケジュールの時間帯にもう少し余裕があった方が良かった。
- ・審査員からの鋭い指摘に拍手！
- ・「女性参画」の認識の違いがあり、社会に自分自身がどう関わっているのか見えてこなかった企画が多いように感じた。
- ・「自分が元気になること」や「家庭円満」、「夫婦コミュニケーション」など「参画」以前の「個」に重点を置いていることが非常に気になった。

【一般観覧者からの意見】

- ・最終選考後の事例だけでなく、このような途中の発表のある事や、公開の場があったのはとてもよかった。
- ・とても興味深く、私たちの参考にもなった。今後もこのように開かれた会が持たれることを期待する。ただ、私たちへも資料をいただければもっとよかった。
- ・このような機会を初めて経験しましたが、この事自体が女性をエンパワーメントしていると思った。
- ・審査員も一般の方も一緒ということが、とても公平な感じがしてよかった。雰囲気も和やかだった。

選考結果

女性チャレンジ推進団体委託事業

埼玉コラボレーションインスティテュート

「女性起業インターンシップモデル事業<女性のライフデザインを考える>」

「女性起業」の事業主に女子学生をインターンシップとして受け入れてもらうことで、事業者の人材育成能力の強化を図るとともに、女子学生が自らのライフデザインについて「女性起業」という新たな視野を得る機会とする。

国際女性の地位協会（埼玉プロジェクト）

「女性のパワーアップ&ネットワークづくり講座」

女性差別撤廃条約と女性差別撤廃委員会の日本政府への勧告や条例などの意義や内容を理解し、ワークショップと意見交換を通じて、実際の生活や地域に活かすための方策を検討するとともに、参加者の能力向上と人材育成を図る。

女性チャレンジ推進自主企画事業

ACT（アクト）

「女子学生のための就職ガイダンス-就職活動をスタートする皆さんへ-」

就職活動をスタートする女子学生が、自己分析の方法を学び、就職に対する自己の興味や目標を明確にすることで、希望する職業に就けるように支援する。

あれあれあ

「私の力に気がつこう」

主に30代の専業主婦を対象にしたワークショップ型の学習を通じて、自分の力に気づき、家庭や地域でその力を発揮するきっかけづくりを行う。

ちちぶ共同参画協議会

「手をつなごう温もりのまちづくり」

男性中心の社会観である地域において、男女共同参画社会づくりの実践的な推進を一步ずつ進めるために、意識調査やセミナーを行う。

特定非営利活動法人 ラナップ

「いつだって再就職できるよ！～自分のチカラをフル活用して自分らしい

働き方、暮らし方を手に入れよう～」

仕事と人生をクリエイトする女性の講師が、子育て期の女性に自信をつけ、自分らしさを表現する実践的で楽しいワークショップ型の講座を行う。

マドレボニータ@さいたま

「産後のリハビリプログラム～社会参加に向けて体と心を立て直そう～」

女性の社会参加や再チャレンジをするために、ボールエクササイズなどで体力を取り戻し、不安定な産後女性の心身を安定させるプログラムを行う。

女性のチャレンジ・リーダー養成講座

特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

「地域における男女共同参画のための『おじさん』受けいれ講座」

地域で活動する女性リーダーたちが、「定年を迎える団塊世代の男性をどう受け入れるか」という視点から、実態調査、ヒヤリング、ワークショップで実態を把握し、地域における新しい男女の連携協力について学びあう。

(3) 関連機関との主な連携例

アドバイザーなどによる企画への助言・意見交換

・東京家政大学 福沢恵子

事業協力の依頼

・埼玉県中小企業振興公社

・埼玉県商工会連合会

・さいたま商工会議所

・さいたま市産業創造財団

広報協力

・国立女性教育会館

・埼玉労働局雇用均等室

- ・ 21世紀職業財団
- ・ 市町村（男女共同参画担当、子育て支援担当、生涯学習担当、労働商工担当）
- ・ 市町村男女共同参画関連施設
- ・ 地域子育て支援センター
- ・ 公民館
- ・ 図書館
- ・ 県内大学・短期大学　ほか

関連機関の事業紹介

- ・ 埼玉労働局雇用均等室
- ・ 21世紀職業財団
- ・ 独立行政法人国立女性教育会館（ヌエック）
- ・ ヤングキャリアセンター埼玉
- ・ 県創業・ベンチャー支援センター

事業・講座の会場として利用

- ・ 埼玉県産学・交流プラザ
- ・ 越谷市男女共同参画支援センター（ほっと越谷）
- ・ 秩父市歴史文化伝承館
- ・ 秩父宮記念市民会館

（４）実施結果

概要

講座の実施状況	延回数	参加者延人数	運営人数
団体委託（２）	８回	１９３人	１８人
自主企画（５）	２２回	６０４人	３３人
リーダー養成（１）	２回	３５人	１０人
計	３２回	８３２人	６１人

* そのほか、アンケート調査、インターンシップを実施しているがその人数は含まれない。

講座・事業参加者の意見

- ・ ワークショップ型の講座はいろいろな気づきがあり、参加した人たちには多種多様な価値観があることがわかった。
- ・ 0歳児からの保育つきの講座をもっと実施してほしい。
- ・ 頭で考えるだけでなく、行動によって学ぶ事は自分の力になった。
- ・ 自分自身を見つめ直せる機会となった。
- ・ 全5回を通して「自分を客観的に見る」という面がとても満足できる内容であった。
- ・ エクササイズはとても楽しく、ただ参加するだけでなく自分達も何かができるということを体験できて、とてもよかった。
- ・ 自分のなりたい自分、好きな自分への実現を目指して頑張りたい。
- ・ 就職活動で何をすれば良いのかが分かった。自分がやりたい仕事も見えてきた。
- ・ 就職活動に自信が持てるようになって良かった。納得して終われる就職活動をしたい。
- ・ 目に付きにくい小さな企業であっても、大きい企業とは違った独自の商品を提供しようとする小さい企業のおもしろさや工夫。小さい企業ならではの独自性やこだわりを多く感じた。
- ・ 受け入れをするにあたって、経営者としての仕事を見直すきっかけとなった。
- ・ 女性と男性が、一緒にやっていくうえで、時間をかけることが大切と教えていただいた。

- ・数少ない男性参加者を、お客扱いしていたが、今後どう対応するか考え直したい。
- ・女性からみた「参加してもらいたい・もらいたくない男性」と考えたことがなかったが、自己反省するの必要を感じた。
- ・知識の再確認とともに新しい知識や情報を得、今後の生き方への示唆を得た。
- ・講座の結果を地域で活用し、地域の人々とともに地域を変えていく動きを起こしていきたい。
- ・参加者のネットワークを維持し、エンパワーメントを図りつつ行政との連携強化にも努めたい。
- ・パネラ - や講演者のチャレンジに力づけられた。
- ・改めて自分の生活を見直し、チャレンジしてみたい。
- ・情報の交換や交流の機会を企画して欲しい。

講座・事業実施者の意見

- ・このような公募型の事業は、今後も継続してほしい。
- ・男女共同参画社会実現のための学習プログラムの内容や種類が充実しているグループはあるが、それを実現できる予算、場所、広報などがないことから、埋もれていることが多い。
- ・今後はさらに多くの事業が、このようなスタイルで実施されることを望む。
- ・5回の講座全てにおいて、受講者の参加意欲が高く、また、アンケート結果も好評な感想が多かった。
- ・グループワークやペアを組んでのロールプレイなど、参加型の講座にした結果と思われる。
- ・受講者の表情、発言が回を重ねる毎に力強くなった。
- ・定員を超える応募があり、私達の活動の必要性を強く感じた。
- ・現在、参加者の方が作ったグループが活動しはじめ、ケアによって出産は女性の社会参加の妨げではなく、新たなスタートとなることをお伝えできたと、うれしく思っている。
- ・参加者の皆さんがとても積極的で、真剣さが伝わってきた。今回のガイダンスの内容がお役に立てればとても嬉しく思う。
- ・一人ひとりが充実した人生を築くために、実りある就職活動をしていただけるように応援している。
- ・女性事業者のメッセージを学生に、学生の気づきを女性事業者に相互に伝え合う機会になった。
- ・実施団体としては、さまざまな価値観、立場の方と会うことができ、非常に有意義な協働ができたと考えている。
- ・男性がリタイアするということが、どう女性に対応すべきか、理解もノウハウもないことが、浮き彫りになった。
- ・「男とか女ではなく人間として」という言い方に隠れてしまうジェンダーの問題について考えていく必要がある。
- ・参加者は、地域や行政・センター等で活動中の方々のため、目的意識が高く、意欲的で主体的であった。
- ・グループワークへの取組が活発で講座との両輪となり、企画者と参加者の協働という形で進めることができ、多くの手応えと収穫を得た。
- ・法制度から現実的・具体的問題まで、チャレンジ支援の筋道をつけることができた。
- ・参加していただいた多くの方達に共同参画やチャレンジについての共感の手応えを感じた。
- ・実現に向けて方法や研修等課題も見えてきた。
- ・事業の実施は忙しく、力以上でしたが、皆で協力し、やり終えることが出来た。

4 成果

5つの新たなネットワークの形成

【1：事業実施団体間】

当事業を通じて、団体同士がお互いの活動を知る機会となった。それをきっかけに、団体同士がそれぞれの特徴をいかし、新たな講座を共同企画・運営することになった。

具体的には、あれあれあとマドレボニータ@さいたまが共同学習会を開催する予定である。

【2：事業実施団体と支援機関】

支援機関が団体の事業を理解する機会となった。その結果、支援機関と団体で共催講座を実施することになった。

SCI（埼玉・コラボレーション・インスティテュート）の自主事業を県創業・ベンチャー支援センターの後援を得て実施した。

【3：事業・講座参加者と団体】

事業や講座の参加者が、当事業で団体の活動を知るきっかけとなった。そこで、引き続き団体の実施する自主講座や事業に参加する機会となった。

ラナップの講座参加者が、ラナップの自主事業である「小学校でのインターネット安全教室」やインターンシップ事業に参加をはじめている。

【4：講座参加者同士】

ワークショップ型の講座では、参加者同士が話し合い、交流を深める機会となり、新たなグループができたところもある。

マドレボニータ@さいたまでは、講座修了後、参加者同士で家族を交えた催しが開催された。

【5：With You さいたまと団体】

これまで WithYou さいたまと関係のなかった団体と、当事業をきっかけに、今後の事業展開につながる機会となった。

具体的には、来年度、団体と連携して、労働関係講演会を開催する予定である。

事業実施団体によるチャレンジ支援事業の継続

団体は、それぞれのスタンスで、引き続き、女性チャレンジ支援事業を実施していく予定である。

また、当事業の成果を報告書の概要版を活用し、県内に周知することで、県内各地で事業・講座が広がっていくものと思われる。具体的に、ラナップが富士見市から再就職支援講座を実施の依頼があり、3月に実施することになっている。

団体と参加者のエンパワーメント

当事業の企画・運営を通じて、団体自身のエンパワーメントにつながった。また、講座・事業参加者が、講座や事業の参加を通じ、様々なことを学び、エンパワーメントの機会となった。

3 「チャレンジ・ネットワーク」構築のためのIT環境整備

1 趣旨

女性が社会でチャレンジしたいのに、第一歩を踏み出せない。こうした場合、女性のニーズに応じた情報が体系的に整備されていないことにも一因がある。そこで、『女性の元気・女性のやる気』を応援するため、イベントカレンダーにはチャレンジしたい女性が必要な情報を得られるよう国・県・市町村等の行政機関やその関連機関、女性団体等のすべての情報資源を総合化（ワンストップ化）し、1つのカレンダーにまとめた。

2 開設時期・場所

平成16年12月に、
埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
ホームページ（<http://www.withyou-saitama.jp>）に開設。



3 利用状況（平成17年3月15日現在）

(1) 団体登録数 108団体

* 女性団体等 (30)

* 市町村 (57)

* 県・国の機関など (21)

県職業能力開発センター/県立秩父高等技術専門校/県民活動総合センター/県創業・ベンチャー支援センター/県職業能力開発課/彩の国就職支援プラザ/県東松山農林振興センター/21世紀職業財団埼玉事務所/国民生活金融公庫越谷支店/(社)埼玉県商工会議所連合会/埼玉県医師会 ほか

(2) イベント掲載数 381件

(3) アクセス件数 2267件 (12月20日～)

4 内容

(1) 画面機能

初期画面には、当該月の全イベントのタイトルが掲載される。

イベントタイトルをクリックすると、当該イベントの開催日・内容・会場・申込方法・保育の有無・連絡先などが掲載された画面に移行する。

(2) 検索機能

年月指定検索

カレンダーは、6か月先まで見れる。年月指定か前月・翌月のボタン操作で閲覧したい月を捜すことができる。

カテゴリー検索

「男女共同参画」「子育て・介護・福祉」「起業・就業・再就職」「キャリアアップ・人材育成」「ボランティア・NPO」「農林業」「国際関係」「調査研究」の8つのカテゴリーがある。各カテゴリー別にイベント検索ができる。

地域検索

埼玉県内90市町村を主要路線に沿い、人口の多い都市を中心に12地域に分割した。近隣市町村で行われる催しをカテゴリー別に検索することが可能である。

キーワード検索

イベント名・内容・会場・主催者については、キーワード検索ができる。

5 成果

With You さいたまにとっては、これまで施設の利用方法等の情報を中心に、県民に情報を提供してきたが、カレンダーの完成により、女性団体をはじめ、市町村・財団等の関連団体が持つ情報を、総合的に発信できるようになり、サービスの向上に繋がる。

女性団体等の情報提供者にとっては、無料で不特定多数の県民を相手に情報を提供できるようになった。また、同じような環境の女性団体にとっては、他団体がどのような活動をしているか分かるため、ネットワークの輪が広がる。

チャレンジしたい女性にとっては、掲載される情報が、子育てや起業・就業、人材育成など、8分野と広範囲にわたるため、タイムリーに多くの情報を知ることができ、興味が広がる。

6 利用者ニーズの把握

イベントカレンダーの作成にあたり、利用者の意見を聴取した。

(1) イベントカレンダーの利用について

イベントカレンダー開設にあたり、公募事業の募集説明会参加者対象に、イベントカレンダーの利用するかどうか聞いたところ、回答者全員が、「利用したい」、「条件によっては、利用すると回答」であった。

(利用したい理由)

- ・レベルアップ、情報提供の双方向で有用。
- ・自分たちの企画提案している、あるいは実施している事業の参加者を募集したい。

(2) イベントカレンダー原案について

情報閲覧者として見た場合、カレンダーのカテゴリーの使いやすさ、掲載される情報量、色分けなどについて意見を聞いたところ、肯定的な意見が多かった。

【意見】

- ・カテゴリーごとの色分けは大変よい。色合いにより、見づらくなる可能性がある。

【意見反映】8色をやめて1色にした。

- ・託児が可能かどうかの表示が必要。
- ・県境の場合、隣県地域の市町村の情報も知りたい。

また、情報登録者として見た場合、ID / パスワードの取得、遵守事項への同意、入力内容などについて聞いたが、「特になし」が多かった。

【意見】

- ・各イベントの駒は、イベント名だけでなく、内容・主催・HP アドレスを一体型にした駒で、カテゴリー別に並べたらいいのでは。

【意見反映】主催者情報の拡充

【その他意見】

- ・イベントカレンダーの完成を楽しみにしている。とてもいい企画であり、期待している。
- ・毎年更新して、徐々に良いものにしていけば良い。
- ・情報量が多すぎても、分かりづらくなる可能性もある。
- ・入力方法としては、書式を各自が書いて、SE が確認したうえで入力をした方がいい。
- ・多くの情報が一つに集まり、どんどんアクセスできる環境はとてもありがたいので、具体的なイメージは難しいがよいものを完成させてほしい。

4 チャレンジモデル事例集の制作

1 趣旨

彩の国女性チャレンジ支援事業報告書の別冊として、女性のチャレンジ支援の拠点施設を紹介するとともに、そこで関連して活躍している身近なチャレンジモデルを紹介する事例集を作成する。

2 方法

(1) 情報収集

With You さいたま、市町村男女共同参画関連施、市町村対象に、事業や講座の受講生や関係者から、「働きたい、キャリアアップ、NPO、育児・介護、起業、農業、まちづくり」などの分野で活躍する、県内の身近なチャレンジモデルの情報を収集した。

(2) 編集員（取材・執筆担当者）の募集

女性チャレンジ支援事業の落選団体のうち、編集に関心のありそうな団体から、取材・執筆担当の編集員を募集した。

(3) 編集講座の開催

編集員対象に、ユック舎の上野いく子さんによる「編集講座」を開催し、チャレンジモデルへの取材・執筆を担当した。

編集講座のスケジュール・内容

開催日	回	テーマ	内容
9/29 (水)	1	編集員に期待されていること	講義 男女共同参画社会に資する情報誌とは何か、「市民制作・行政発行」の意味、ロールモデル(チャレンジモデル)集とは 自己紹介
10/6 (水)	2	取材内容と取材の仕方	講義 制作の流れ、取材とは、取材前に相手に伝える内容、取材にあたって気をつけること、取材項目を決める
10/13 (水)	3	原稿の書き方について	講義 原稿の種類、原稿の形、原稿の書き方
		取材：2人1組で、1人4カ所ずつ取材	
		原稿執筆（自主作業）	
11/17 (水)	4	原稿の読み合わせ	内容、表現等について、全員で読み合わせを行い、完成度を高める
12/1 (水)	5	原稿の読み合わせ	
		レイアウト入稿	
12/15 (水)	6	校正の仕方	講義 校正のポイント 作業 出力紙を見ながら、全員で校正して、完成時のイメージをつかむ
		印刷製本	
1/31 (月)	7	反省会	次回につなげるために課題を探る

3 掲載内容

「新しいことを始めたい。でもはじめの一步がふみだせない」という女性に向けて、自分らしく活躍してチャレンジモデルとなっている女性と、応援してくれる機関(チャレンジ支援機関)を紹介している。

チャレンジ支援機関・チャレンジモデル一覧

チャレンジ支援機関	チャレンジモデル
富士見市共同参画推進室	石井ナナエ(ふじみの国際交流センター理事長)
春日部市男女共同参画推進センター (ハーモニー春日部)	飯嶋和美(春日部市男女共同参画推進審議会委員)
蕨市市民課市民室・教育委員会生涯学習課	大貫芳枝(学びあいカレッジ IT系部会長)
新座市男女共同参画推進プラザ	尾崎千恵子 (NPO 法人田舎のヒロインわくわくネットワーク理事)
岩槻市人権推進課	早乙女弘枝(声楽家)
埼玉県男女共同参画課	二瓶満智子(協和精工(株)取締役検査部長)
埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)	松岡千恵(SEZONO 代表)
三郷市健康推進課	松下智香子(松下助産所)
宮代町総合政策課	丸山妙子(宮代町公民館長)
さいたま市男女共同参画推進センター (パートナーシップさいたま)	吉岡万里子(ファイナンシャルプランナー)

4 成果

県内の身近なチャレンジモデル及び支援機関の情報提供の機会となった。
女性チャレンジ支援事業の応募団体から、編集員を募集したことで、応募団体の再活用となった。
編集講座、取材・執筆を通じて、編集員のエンパワーメントとネットワークにつながった。

5 編集員の意見・感想

(1) 事業について

- ・講座の最初に男女共同参画について話し合ったおかげで、企画の意図が理解できた。
- ・「男女共同参画」を身近に感じる機会になった。
- ・行政の担当者から直接話を伺い、行政の活動が見える機会になった。

(2) チャレンジモデルについて

- ・自分の身近な友人にはいない方と出会う機会になった。
- ・輝いていて遠い存在と思っていたチャレンジモデルも、苦労されていた時期を知ることによって、自分の身近に感じる事ができた。
- ・チャレンジモデルの今があるのも、小さなことの積み重ねであることを知ることができた。
- ・チャレンジモデルは、やりたいことを我慢していないが、大事なことをピンポイントで実践し、優先順位をつけていた。その点を学びたい。

(3) 取材・執筆について

- ・価値観の違うチャレンジモデルにも共感できたので、それを読者に伝えたいと思った。
- ・普段は文章をかきっぱなしなので、今回ほど推敲はしない。原稿を上野さんや編集員に指摘していただいたのは非常に貴重な経験だった。

[> ログインする](#)

地域で絞り込み

カテゴリで絞り込み

With You さいたま主催

[検索を解除](#)

イベント名・内容・会場・主催者

検索

2005年1月

[前月へ](#)

[当日へ](#)

[翌月へ](#)

年月指定

2005

年

1

月

[移動](#)

日	曜日	イ ベ ン ト	備 考
04	火	第四期ジョブクラブ [申込要] / さいたま市・上尾市近辺	
05	水	パソコン技能講習 [申込要] / 川越市近辺	
06	木		
07	金	すぐに役立つパソコン教室 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 ボランティアコーディネーター地域研修会 [申込要] / 川口市近辺 身につけよう知識と技能 年齢制限なし! [申込要] / さいたま市・上尾市近辺	
08	土		
09	日		
10	月		成人の日 南大塚の餅つき踊り
11	火	これからの日本経済のゆくえ デフレ経済下 [申込要] / 川口市近辺 就職活動スキルアップセミナー [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 すぐに役立つパソコン教室 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺	